



関東同窓会

第28回総会・懇親会

とき・平成26年6月21日(土)
ところ・東京プリンスホテル



松島会長挨拶

今年の関東同窓会は平成26年6月21日(土)正午より、昨年に続き東京プリンスホテルに総勢234名を迎えて開催されました。井手幹事長による総会開会宣言、物故者を悼み一同黙祷、曾副会長の号令により一同校歌斉唱、続いて松島会長より「沢山の来賓、会員の出席を頂

き感謝します。同窓会は日本人の文化と考えており、その火を消さないように頑張っていきたい」とのご挨拶があった。

ご来賓は、後藤竹田高校校長、後藤同窓会長、首藤竹田市長、志賀PTA会長、辻竹田会長、阿南大分県東京事務所長、三重高・生野支部長、農工会・利光会長、三重農・岡本幹事長、国東高・有次会長、高田高・山田幹事長、十王・帯刀同窓会長の皆様です。今年もまた、竹田市から当番幹事と同年の仲間十数名が大学上京し、懇親会の運営にご支援を頂き感謝しています。

大分県立竹田高等学校
関東同窓会
第48号

発行所・会長 松島修二
編集者・委員長 田部修士
発行所・関東同窓会事務局
〒245-0016
横浜市東区泉町 4384-2
電話 045-803-5677

<http://www.gsocties.jp/kantohaketa/>



御来賓と松島会長、長吉先生による饅割り

後藤校長より「私は昭和52年卒で、竹田高校には20年振りに戻ってきました。日本一の魅力あふれる学校づくりに目指して頑張る」と、力強い報告があり、後藤同窓会会長からは「2017年に創立120周年を迎えることから将来に繋がる事業を考えたい。また同窓会員の日ごとの故郷への篤い思いに感謝いたします」とのご挨拶を頂きました。

後藤校長より「私は昭和52年卒で、竹田高校には20年振りに戻ってきました。日本一の魅力あふれる学校づくりに目指して頑張る」と、力強い報告があり、後藤同窓会会長からは「2017年に創立120周年を迎えることから将来に繋がる事業を考えたい。また同窓会員の日ごとの故郷への篤い思いに感謝いたします」とのご挨拶を頂きました。

続いて、首藤竹田市長が登場

され、「皆様との再会を楽しみに上京してきました。7月13日に竹田の農村回帰がNHKで放映されましたが、人口減少に歯止めをかけよう」と職員一同頑張っています。文化会館の復興事業と図書館の立直し計画を進めています。和太鼓T.A.Oは、東京オリンピックに向けて市民挙げて採用されるように応援しています」といつもの力強い挨拶がありました。

続いて、首藤竹田市長が登場

さて、いよいよ、28年卒業の末吉先輩(財務大臣参事)の乾杯のご発声により懇親会のスタートです。「竹田では。清き誓い、気を練れ」と歌わって来た。戦後の日本は、余所者、若者を集めた町が繁栄している。竹田については改めて岡城はどのから資金を持ってきて建設したのか、後藤太郎がいてなかったら今の竹田はどうだったか、竹田はどの時代に繁栄したか等々考えてみたい。「乾杯」



懇親会 会場風景

可会は当番幹事の森さん、柳川さんにバトンタッチされ、「これからは 田舎の言葉でしゃべろう」の掛け声で懇親会となりました。

当番幹事の仲間・深田敏文さんが、新たに4月5日、市内の歴史文化ゾーンの一部、武家屋敷跡に完成した深田光重記念館「詩琴館」の紹介とたいい喉(詩吟)を披露された。

今年のメインイベントは、20日(土)の予定です。

20日(土)の予定です。

竹田高校より

日本一の学校を目指して

校長 後藤 輝美



後藤校長

1 あんたどげんし

関東同窓会の皆様、初めまして。総会にご出席された皆様、大変お世話になりました。「臥牛」の第47号で紹介して頂いておりますのでプロフィールは略します。母校竹田高校には20年ぶり2度目の勤務です。麻中の蓮とでも申しませうか、大勢の方々に支えられて今がありますので、「しらしんけん」頑張ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2 どげな学校を目指しちよるんかえ

日本一の学校です。

「生徒満足度日本一・保護者満足度日本一・地域満足度日本一」の日本一の学校です。因みに本校HPに私の描く学校構想、グランドデザイン(GD)や折衝の生徒への思いを掲載し



遠歩大会

ていまずのでご覧頂ければ幸いです。まず生徒満足度100%、毎日の学校生活が楽しく充実している、その充実した一日を積み重ねた3年後に進路志望の達成が待っている。今日が楽しく3年後が安心できる。だから「自分の学校が好きだ」と言う生徒の率が日本一高い、そんな学校を目指しています。そして、保護者満足度100%、「竹田高校に子どもをやって良かった」と思って頂ける保護者が100%。さらに、地域満足度100%。全ての地域の方々に「竹田高校は良い学校だ、地域の誇りだ」と思ってもらえる学校です。志を立てその実現に向けて教職員や仲間と一緒

に必死で頑張る生徒達で一杯の学校を創っていかうと訴えています。昭和40年の生徒会が決定した生徒会スローガン「気力・闘志・根性」を大事な精神的支柱とし、質実剛健の気風を受け継ぐタフでしなやかな竹高生になって困難を乗り越えようと言っています。「できない」という悲観は気分、「できる」という楽観は意思であり決意だなどと言いが背を押したりしております。この日本一の学校創りの諸々の仕掛けをGDに織り込んでおります。一年を通してこれを実践し、結果を検証し更なる改善を図ってゆきます。無論、「比べられる一対的な日本一」だけでなく「比べられない」絶対的な日本一もあります。わが母校を日本一と思ふ心は絶対であり、生徒皆が自分自身同様、母校も掛け替えのないものとして大切に思い、誇れる学校の創造に邁進致します。

3 生徒はどげな風かえ

今も昔も純粋であり直感で明るく真面目な子がほとんど

です。地域の人からよく挨拶ができるというお褒めの言葉も頂きます。ただ、「井の中の蛙」的の雰囲気は否めず、青雲の志(死語でしょうか)、人間に到る気青山ありと言った心意気に乏しく、自分の将来の活躍の場を世界や県外に求めない嫌いがあるようです。大成ではなく小成に安んずるとも言うように、世界に通用し、そして地域を創生する人材の育成に資するよう只今、ハッパをかけているところです。

(1)進路状況は、国公立

大学合格者数を例に取ればここ3年間の卒業生の状況は入学時に比しほぼ2倍の伸び率で今春は2.5倍ほどの健闘ぶりです。ただ、残念なことに東大、京大など最難関と言われる大学には合格者が出ていません。入学生の中のトップ層の減少、生徒の九州内・県内志向などのトレンドがあるようにあります。全体としては生徒の志望達成が十分出来ているものと自負しております。

(2)部活動の成果は、トップは

山岳部です。今年も県で優勝し、インターハイ出場。男子速球23回日、女子5回目でしたが、全国では今一步の所で男子が入賞を逃しました。クライミング競技は県総体で男女ともに



県総体開会式

4 先生たちはどげな風かえ

教育熱心で一生懸命子供達のことを考える優秀な教職員です。彼らに対して着任早々、意識改革を訴えました。因循苟且な前例踏襲主義はダメ、改革マインドを待てと。そして4つの

1位、3位を独占しております。弓道部男子団体3位も大健闘。また、文化部では囲碁で個人1位を獲得した生徒もおります。書道・吟詠部も全国大会に出場。器楽部も銀賞を獲得するなど各部とも健闘しております。甲子園も花園も西京極も、今少しお待ちあれ。

会計報告

収支計算報告書

(平成25年4月1日より平成26年3月31日まで)

1. 収入	
①維持会費	1,738,000円
②総会費	1,760,000円
③総会税備	130,000円
④寄付収入	75,113円
⑤受取利息	288円
計	3,703,401円
前期繰越	2,378,690円
合	6,081,991円
2. 支出	
①総会費	1,926,883円
②会報費	603,668円
③会議費	348,949円
④ホームページ費	6,300円
⑤当番幹事助成金	50,000円
⑥慶弔費	0円
⑦寄付金	75,113円
⑧事務通信費	228,967円
計	3,239,880円
次期繰越	2,842,111円
合	6,081,991円
3. 次期繰越の内訳	
①現金	82,995円
②預金	2,759,116円
計	2,842,111円

上記のとおり報告します。

ション即ちミッショントン、プロフェッショナル、ラボレーションを意識して職務にあたるよう指示しました。学校並びに、自分のミッション(使命)は何か、そのミッションを果たせるだけのパッション(情熱)は健在か、そしてプロフェッショナル(専門性、正確にはリズムカ)を持ち合わせているか、組織として仕事をするコラボレーション(連携・協働)はできているかということ念頭に置いて職務遂行に当たるよう繰り返して述べています。特に教師にとって授業は命です。専門性の向上に絶えず努めることを求めつつ校内でのシステム構築に腐心しているところで、全員が1・7年の歴史と伝統を誇る県下屈指の普通科進学名門校の使命をしっかり自覚しながら、日本一の高校を目指す一流

5 同窓会んしたちへの感謝とお願い

2学期の修学旅行生の企業訪問研修や大学訪問のお世話を頂き、更には夏に同窓会全体として1・2年生選抜の同窓会派遣事業におききしても物心両面に渡りご支援を頂いております。とに心より感謝申し上げます。就中、里見援学会の皆様には相応する感謝の言葉を見いだせません。今夏は10名の生徒達が、東大、早大、慶大などを訪問し、川添准教授や重村教授のお話を伺うことが出来ました。12月10日からは修学旅行団がまたお世話になります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。長吉明大顧問

の職員集団たらんと精進しております。



懇談される大先輩(里見様、末吉様、志温野様)

第28回 写真で振り返る 総会・懇親会



会場風景

司会の森さん、柳川さん
〔これからは大分弁で…〕

浜島美紀さんとご友人



来賓・竹田市長御挨拶

竹田高校中庭に移設された
里見援学会創設者、里見氏の銅像

6 その他、言うちよき てえこつ

京の大学とのお声に少しでも応えられればと努めております。竹田会の辻新会長に育いた「グローバルな人材の育成」という視点からも今後も大いに本物に出会えるプログラムを用意したいと考えておりますのでどうぞご協力方をお願い申し上げます。

県下でも少子化、過疎化のトツプを走る本地域にあつて定

員確保の問題を抱えておりますが、関東同窓会の皆様方が遠き都の地よりいつも温かい(時に厳しい)眼差しを注いで頂いておられます。肝に銘じて頂いて、学校運営に全力で取り組み、ただ何分にも浅学寡聞にして未熟者が校長の末席を汚していただきますので、皆様方のお力添えを切にお願い申し上げます。最後にありがとうございました。貴会の益々のご発展と皆様方のご健勝を衷心よりご祈念申し上げます。

クラス会

同期会

昭和51年卒〜53年卒
合同同窓会

篠藤 淳(前52年卒)

6月の総会終了後は、学年別に2次会となるのは恒例のことだが、今年は昭和51年、52年、53年卒の3学年合同の2次会が開催された。この3学年はなぜか仲が良く、プロ野球でホークスのゲームが東京ドームである時は、内川聖一選手を熱狂的に応援に行くのが恒例となっていた。特に今年は新任の校長、後藤輝美先生が52年卒という点もあって大いに盛り上がった(写真・前列中央が後藤校長)。しかも、もうすでに忘



年会の日程まで決まっているという。ぜひご参加をお待ちしています。

日時：12月13日(土) 17時
場所：花善(五反田)

竹田高校40回(17期)
記念同窓会

本田 博教(前40年卒)

平成26年4月5日(土)、ホテル岩城屋において各9クラス満員なく総勢1228名が集合しました。受付では右往左往の大混雑でした。

事務局では「70までもたんかもしれん」「動けるうちに同窓会を早よう、しようえいち」とすぐ決まったそうです。受付終了後、記念写真をスタジオで撮影となりましたが、1回では入りきれず2回に分けて行いました。

川口晃生委員長の発声で物故者へ黙とうのあと、くたみ太鼓演舞(久住町)、古庄幸一君の乾杯で懇親会へと進みました。最初はクラスごとのテーブルでしたが、あちらこちらで親睦を深め、余興のなか和気あいあい



のひとつときでした。

2次会はクラスごと市内の宴会場に繰り出しカラオケなどで一層の懇親を深めました。

翌日(6日)は好天に恵まれ、市内散策とゴルフ組と分かれま

した。散策では母校の訪問、岡城校まつりでは岡城址広場で鉄砲隊の演技、大名行列を楽しみました。初めて見学する同窓も多かったと思います。

武者行列の「シタニイ・シタニイ」の掛け声で前進しますが、参勤交代もあんな感じだったのか信じられない。とても江戸までたどり着くとは思えない足踏みと衣装でした。散策後、母校に戻り「元気でまた会おう」と力強い約束をして散会しました。

東海大分県人会
40周年記念総会・懇親会大分県竹田市副市長
野田 良輔

去る7月5日(土)、名古屋国際ホテルにて、東海大分県人会(山本英次会長)の創立40周年を記念した総会・懇親会が、2500人の参加を得て、盛大に開催されました。

まず、総会が開かれ、2013年度の事業・会計報告、会長の改選(山本会長の継続)、2014年度の事業計画と予算等が議決され、引き続きこ来賓として広瀬勝貞大分県知事、大村秀章愛知県知事、川野悠一関西大分県人会長、村上憲郎在京大分県人会長、(公財)長谷川二三天名古屋観光コンベンションビューロー理事長から祝辞を賜



広瀬知事初め御来賓と乾杯

りました。また、40周年を記念して、正田太福閣、遠藤龍雄、河野正仁、佐藤定副会長、佐知節典専務理事、石丸重利・松井法雄・水野保子常任理事及び野村三郎理事に対し、感謝状が授与されました。

引き続き、近藤和義大分県議会議長の乾杯の御発声により、懇親会に移り、中津市・竹田市・宇佐市・豊後大野市・日田町の各市長等による激励の言葉と故郷自慢、南山大学チアリーダーによるチアリーダーイング、歌手しいの実による歌謡ショー、チンドンによる大分ゆかりの演奏、お楽しみ抽選会などのアトラクションが行われ、会員相互の親睦を深めました。また、会場の別室では、会員による書道・絵画・写真作品、さらには「40周年のあゆみ」写真などが展示されました。

振り返ってみると、東海県人会の役割は、昭和50年の発足当初、故郷からの出身者支援や親睦が主でした。今日では、高齢化や高齢化、観光振興、産品流通、Uターン定住、ふるさと納税などの故郷の課題に対し、会員がいかに応援しうるか、といった「東海地方と大分との架け橋」といった役割も重要になっています。兄弟姉妹会である在京大分県人会とも連携することで、県人会活動の活性化を期待しています。

鳩とわたし

後藤十四生(昭42年生)

鳩レースとは、伝書鳩を使つてのレースです。

実際の鳩レースは、複数の愛鳩家が、各自の飼育している鳩を持ち寄り、同一地点から同時に放鳩し、誰の鳩が速く帰ってくるかを競うものです。条件を公平にするため、放鳩地から各自の場合までの距離を正確に測定して、鳩が帰ってくるのに要した時間で割り、スピード(分速)を出して比較します。

この時間を正確にする為レース鳩には、それぞれに割り当てられた番号を脚につけて鳩舎に帰ってきた時に自動的に帰還時間を記録する電子入刀システムにより、記録されます。それを本部がパソコンにより集計し順位を決定します。

尚、鳩レースは、全ての鳩が確実に自分の巣に帰れるわけではありません。途中ではくれて、猛禽類に襲われたりして、距離が長くなると無事に帰れません。1000キロレースでは、帰還率が、1割以下です。ですから、無事に帰った時の飼い主の喜びはひとしおであり、これが醍醐味でもあります。実際にレースに参加するには2つ

ある競翔団体(社団法人日本伝書鳩協会・日鳩 社団法人日本鳩レース協会、鳩協)に入り、参加します。私は日鳩の関東支部連盟・関東中央支部合同会(レース開催グループ)の柏原支部に属しています。鳩協に比べると日鳩の方がやや家庭的です。この中で友達と共同でレースに参加しています。

レースはその年に生まれた鳩を中心に、秋と春に200キロ・1000キロまでレースがあり、団体の下に各地に競翔グループがあつてそこで順位を決めます。私は秋の関東中央支部合同会の400キロレースで総合優勝しました。

鳩には、彼馬と同じように、



血統があり、本場はベルギーです。そこから種鳩を業者が購入し、その子鳩を我々が交配します。レースに使われる鳩は、その配種と飼育が2月から5月頃まで行い、9月頃から訓練として100キロくらいから放鳩を開始して、本番のレースに備えます。その間、鳩小屋の掃除と餌やり、病気の薬やり等の世話をを行います。

でも、レースで自分の鳩小屋へ、鳩が帰ってくるのを待つている時は本当に心がとぎめきます。帰ってきた鳩が、速いとその日の夜のデータ集計が楽しみです。レースに上位に入賞するとわずかで賞金が出ます。それが又たのしみです。私は始めてからまだ日が浅いため鳩の見分け方(例えば、この区別・長距離系か短距離系か等)がまだまだ出来ません。鳩の世界も奥が深いと感じています。

炬だるま

昨年9月ですが、大分銀行の中野さんが会社にお見えになり、東京支店開設50周年の記念として全国にも珍しい、炬だるまを頂戴し、今も事務所に飾っています。その中に炬だるまの由来がありましたので、概略にてご紹介いたします。

「炬だるまは、岡藩藩士・雑賀氏の妻・綾女的美徳と風格を称える郷土人形で、その起こりは今から約360年前 慶安2年ださうです。

由來によると、嫁高が少なく、いさかいが絶えなかつた雑賀家、希望を失い家を出て生死の境を彷徨した綾女が、行く当てもなく道端に倒れていたところ

を夫に救い出され、その後は、清く美しく生き抜いて家族の絆を強め、夫も昇進して家も繁栄したという話から「家庭円満」「商売繁盛」の象徴として、綾女をモデルにした女性のだるまが作られるようになった。

やさしい十二単に松竹梅のペールをまとい身の清らかさを表現し、背中の宝珠は命の源を表した楚々たる姿、緑起の神様として魅力的な存在となっている。」

田部 修士(昭42年生)



長湯温泉の芹川にかかる橋のたもとで



ふるさと名所紀行

祖母山と

ウガヤフキアエズ王朝

昭和32年 飛田川出身 藤島 寛高



中宮拝殿

この神社をめぐる謎

それは、そこに祀られている神様と社殿の配置を見ていただければ分ります。

謎1 違拝所

みなさんは、祖母山の麓にある神原地区をご存知でしょうか？
ここに「健男稲凝日子神社」という立派な神社があります。
通称「穴森神社」または「神原神社」とも呼ばれていますが、実は、ここは謎だらけの、不可解な神社なのです。

まず、神原溪谷のほとりにある一番立派なお社ですが、実はここは「違拝所」なのです。
つまり、神様を拝むための集会所であり、そのご祭神は「健男霜凝日子」と書かれています。タケオシモコリヒコとは一体誰なのでしょう？ 少なくとも神話にはあまり登場してきませんよねえ。

さらに、神様を拝む方向は祖母山の山頂を指していません。一体誰を拝むための施設なのでしょう？

謎2 下宮

この違拝所から、さらに西に約600mほど行くと、険しい崖の中腹に「下宮」があります。ここは地元の人以外は、ほとんど知らないと思います。

しかも、その入り口には「姥嶽稲荷」と書かれていますので、誰もがお稲荷さんかと思ってしまうのでは？



下宮

謎4 上宮

まうのですが、実は看板の裏側の名前があります。この人たちには「豊玉姫」と「彦五頼命」は一体誰なのでしょう？ しかも、なぜ裏面に書く必要があったのでしょうか？

祖母山の山頂には、石の祠があつて、そこに祀られているのは「高千穂大明神」です。
この「高千穂大明神」と「祖母山大明神」は、違う神様なのでは？

険しい石段を上り詰めると、そこに大きな洞窟があり、その横穴にすっぽりと収まるように、朱塗りの立派な社殿があります。「真人郡志」には「白雉二年(651年)飛鳥時代の創建」だと書かれています。一体誰が、何のために？ このお社を建てたのでしょうか？

さてさて、このあたりで大混乱してきませんか？
なぜ、「上宮」「中宮」「下宮」と「違拝所」で、それぞれ違う神様が祀られているのでしょうか？ まるで、何かを悟れなために、わざと隠しているのでしょうか思えません。

「豊玉姫」だけではありませんが、その息子の「ウガヤフキアエズの命」や、孫の「彦五頼命」も、スサノオ信仰などに絡り変えられています。

そこには、私たち竹田市出身者さえも知らない、深い深い秘密があつたのです。

つまり通称「日向三代」と呼ばれるこれらの神様たちは、明治政府にとことん嫌われていたのでしょうか思えないのです。

明治政府は豊玉姫を嫌っていた？

いったい、明治政府は、何を考えていたのでしょうか？

謎3 中宮

ここは、通称「穴森神社」と呼ばれているので、ご存知の方も多いと思います。

もともと、この場所に祀られていたのは「豊玉姫」という女神様とそその一族だったので、この「豊玉姫」こそ、実は日本人のルーツであり、天皇家の

ご先祖様であり、姥嶽大明神であり、蛇神様と呼ばれた大蛇の化身であり、さらに竜宮城からやつきた羊魚人だったのです。
明治13年、この神社を「国弊社」(国立神社)に昇格させようという動きが盛り上がり、立派な社殿も整備されましたが、当時の教部大輔は、この申請をあっさり却下します。

「上記」が伝えるもうひとつの古代史
さて、代々豊後国の領主を務めてきた大友家。その家系に門

外不出として伝わる「上記」という古文書が存在することを知り得ようか？

しかもこの古文書は「豊国文字」という神代文字で書かれています。最近まで誰も読むことができなかったのです。

そこには、とんでもないもうひとつの古代史が書かれています。

つまり、要約しますと……

◆ニギギの命は祖母山に天孫降臨した。

◆そこから北側に下り、大野川流域を中心に古代国家を作っていた。

◆その首都は「大分の宮」と呼ばれ、現在の穂田タウンの付近にあった。

◆近くの雲山にはヤタの鏡が置かれ、ここに天照大神が祭られていた。

◆一方、竹田には「直入の宮」と「二上の大宮」があり、ここは信仰や文化の中心地だった。

◆そして、孫のウガヤフキアエズの命は、この地から日本全国を統一して、その治世は少なくとも74代に上った。

この古代国家は「ウガヤフキアエズ王朝」と呼ばれています。現在では実在しなかったとする説が有力となっています。いったいなぜ明治政府は、この古文書を封印し、全国各地の

神社から「日向三代」の神々の痕跡を消していったのでしょうか？ その答えはあえてここに書きませんが、ひとつだけいえることは、この豊玉姫をはじめとする「日向族」とは、現在まで続く「大和王朝」とは、お互いに対立する勢力であった可能性が高いということです。

興味のある方は、私の運営するサイトを覗いてみてください。「ウガヤフキアエズ王朝」に関する<http://ngvya.fink.com/> 最後にもう一度強調しておきます。

実は、日本百名山の祖母山こそ本当の天孫降臨の地であり、竹田こそ日本文明発祥の聖地であり、それをもたらしたのは豊玉姫を中心とする「日向三代」の神々だったのです。(あくまでも「上記」の記述が正しいとすれば……ですが)

だから私たち竹田市出身者は、消えかけた古代史の真相を探求して、後世に伝えてゆく義務があります。

神原地区にある神社は、私たちの祖先が残した「謎解きのヒント」なのかもしれません。

※もし、詳しい情報をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひメール shirahara@ngvya.com、またはお知らせください。



もうひとつの白洲次郎 続編

愛国史談会会長 後藤 文雄

平成二十一年春、NHKのドラマ「白洲次郎」の中で、父文平さんが晩年過ごされた萩町桑木の山中で、亡くなるシーンが数分間放映されました。その画面に大きく「大分県直入郡萩町」の文字が表示された。すると、翌日から萩中央公民館に問い合わせの電話が殺到したと聞いた。

白洲文平、明治二年(一八六九)生まれ。明治学院大卒、ハーバード、ボン大学留学。のちに貿易会社「白洲商会」を創業、巨万の富を築く。豪放・放漫な性格。周囲からは、「白洲將軍」と畏敬された。建業が趣味。

昭和三年、白洲商会は、昭和金融恐慌で倒産。現在の竹田市萩町桑木に洋館を建て移り住んだとある。

前記ドラマの主人公次郎は息子で、戦後新日本国憲法制定にもかかわらず。吉田茂外相(のち首相)の側近として、進駐してきたマッカーサーに対等に接し、G日Qに「従順ならざる唯一の日本人」と言われた外交官。

では、とうして文平さんが萩町に住み着いたか。話によると萩村のある村議が、北九州の町で偶然に出会い意気投合し、萩村の風土や環境の話に合意し、村議は夏は涼涼で広大な耕地や山林があると話し、中でも鶉が多いという話が気に入るようになったようだ。

金も暇も十分な隠居生活、狩猟にも興味があったのだろう。昭和三十年代まで萩町の田畑の畦元には鶉がいた。冬、稲刈り後の畦元を歩く足元から、唸るような大きな羽音を発して飛び立ち、一メートルの高さを水平に数十メートル飛んでゆく、味のよい鳥だった。その後の機械化で、手刈りの時のような落ち穂がなく、冬期の田畑も耕起され、餌がなくなったの今は野生の鶉は全く見かけない。

文平さんは、萩に着くと洒落た洋館を建てた。残された写真では、暖炉の前にくつろぐ姿も見える。近くの小川からポンプで水を汲み上げての水洗トイレ。ペットの下には格桶が置かれていたのは有名。狩用の馬も数頭飼われ、近所の男達が馬を世話したり、狩りの時、馬上から銃を撃つ文平さんの手伝いをして獲物は貴い本人は食べなかつたとも。文平さんは、近所の女達が身の回りの世話をしていたという。

昭和十年(一九三五)、文平さんは六十六歳で亡くなっています。亡骸は、黒塗りの車が来て引き取られた。村人は、初めて見る車に驚いたという。私は、文平さんが亡くなった昭和十年生まれで、文平さんのことは知らない。戦後の少年時代、桑木の親戚の家に遊びに行くと、よく屋敷を見に行った。ガラス窓の縁は白いペンキが塗られ、鼻高さんの家と呼んでいた。

私は、鼻の高い金髪の外人が住んでいたと思いこんでいた。祖父や父は、知っていたと思うが、偉大な人がいたことを知っていたか定かではない。文平さんの亡き後は、向井さん家族が住まわれた。妹が向井さん宅の子供と同級生であったので、よく遊びに行き「赤いレンガの家だった」と話してくれた。

平成になって向井さんは、跡地に住居を新築したが、当時の馬屋の一部は今も残っている。一昨年、向井さん宅に文平さんの曾孫になる白洲信成さんが訪れた。私は、子供の頃などを住居や古老から聞いた話などを伝えましたが、十分な対応はできなかった。その折に、屋根の上に立てられていたという立派な避雷針を見せていただいたが私は覚えていなかった。

お知らせ

図書紹介

田部 修士(昭和42年生)

初代金沢城主・佐久間盛政

「鬼玄蕃と虎姫」

著者▼櫻田 啓・発行▼平成26年7月・発行所▼佐伯印刷

戦国武将で柴田勝家の片腕だった佐久間盛政ほど誤解されている武将はいない。また、その娘の虎姫をめぐる佳話を知る

人も少ない。戦国ファンならこの本で2人の真の姿を知るべきである。

井沢元彦(作家)

●作者紹介

櫻田 啓(くろたけい)

1947年、大分県生まれ。専修大学法学部卒業。

警視庁、出版社勤務を経て、歴史小説の執筆に入る。

●主な作品

『青の洞門』『幻のジバンパー』

年末特番のご案内

瀧 廉太郎と
日露のレジェンド
廣瀬 武夫

ドラマ『坂の上の雲』で広瀬武夫役を演じた、俳優・藤本隆宏さんの案内による特番の企画です。

日時 平成26年12月6日(土)
午後8時~10時

チャンネル BS11



行事のご案内

豊後竹田会総会

日時 平成27年2月28日(土)
開会/午前11時30分
受付/午前11時~会場 梅田フェニックスタワー
地下1階住所/大阪市北区天満4-15-10
TEL/06-6311-2829

■豊後竹田会事務局

大阪市北区東天満2-6-7
南森町東1号館 上原会計事務所内
TEL/06-6351-7894豊後竹田会 会長 上原 辰之
事務局長 峠 智子

計報

慎んでお知らせ申し上げます、心からご冥福をお祈り致します。

物故者御芳名

小西 ハル 様(昭和8年卒)

平成26年1月8日 没

齋藤 一征 様(昭和36年卒)

平成26年1月8日 没

日小田秀幸 様(昭和26年卒)

平成26年2月5日 没

前田 憲康 様(昭和41年卒)

平成26年4月10日 没

阿南 晴 様(昭和32年卒)

平成26年4月12日 没

齋藤 俊司 様(昭和35年卒)

平成26年6月1日 没

※事務局へ連絡を頂いた方を掲載させて頂きました。

辻野先生の
奥様より

夫辻野功は昨年10月末に肝癌がんと診断され、身辺の整理を行い、闘病生活を続けておりましたが、3月16日午後6時32分、76年の生涯を終えました。家族だけで葬儀を行い、4月19日、大分学研究会により、ご縁を頂いていた能楽堂で多くの方にご参列いただき、お別れ会をもつていただきました。辻野を支えてくださった皆様に改めて感謝申し上げます。

実は、3月末に辻野の逝去をメールさせていただいたのですが、私の不慣れから、届いていない方が多く大変失礼をしてしまいました。お詫び申し上げます。またお読みいただいていた方にはこのようなメールを再度お送りする失礼をお許しください。

7月1日には、再度の入院直前に入稿した「親子で読む大分華人伝」が、大分学研究会から出版されました。また秋には明石書店から「大分を知るための55章」が出版される予定です。機会がありましたらお目にとめて頂ければ幸いです。

辻野 浩子

詩歌文芸

家庭の

木々一斉に 井次けり

(昭和11年卒 佐藤ナツミ)

編集後記

我々の故郷・竹田がテレビや雑誌で紹介される機会が最近増えていくことは先ずかと思えます。丸紅の辻大存君のご紹介で、BS放送で竹田に関する企画があることを教えて頂きました。この企画を進めておられる方は、BS11の斎藤副社長(竹田市古町出身)。斎藤副社長は、首藤市長の舞鶴高校の先輩で、お兄様はS27年竹田高校卒業の方と伺いました。お父様は「齋藤ラッキョウ」と呼ばれた先生で、パーカーの里見名誉会長も英語を教わったそうです。

番組は「作曲家・滝廉太郎と国際人・広瀬武夫」日本の美を愛した二人の絆(仮題)。10月にロシアでロケ、11月に竹田のロケがあったそうです。皆さん是非ご覧下さい。

連絡先

〒103-0027

東京都中央区日本橋1-15-1

日本バーカーライジング

(広報委員長) 田部 修士 宛

TEL 03-32278-4350
FAX 03-32278-4331